

ヒューマンウェアインターンシップ報告書

1 / 2

インターンシップ体験記 (海外インターンシップの場合は英語で記入)

今までアカデミックな研究だけを行ってきたが、今回はビジネスにおいて、さらに研究職としてではなくプロダクトマネージャーとして業務を行なった。プロダクトマネージャーは単に製品を管理するという仕事ではなく、顧客の満足度をどのように上げるか、またそれをどのように販売していけばいいのか等を計画し実行していく仕事を行う。具体的には、ロードマップの作製・プロジェクトや投資を行う際の戦略上・財務上等の情報・分析を提供するビジネスケースの作成・新商品の開発・市場への投入という製品を販売するまでの上流工程での仕事。プロダクトのライフサイクル管理やブランド管理・効果的な販売戦略を立てるためのマーケティングといった下流工程の仕事も行う。このプロダクトマネージャーという職種は欧米では主流となっているが、日本ではまだ広く認知されていない職種である。しかし今後ITの進歩に伴い、プロダクト全体の構図を把握することが複雑になっていく場面では非常に重要なポストとなる。

準備期間中にはプロダクトマネージャーとはどういう職種なのか、どういった能力が必要となるのかを調査し、可能な範囲でそれを身につけた。特に論理的に思考するための、またその思考をわかりやすく共有するためのフレームワークを学んだ。しかし課題としては、先に述べたようにまだ広く認知されていない職種であるため、知見が多くは見つからなかったという点である。それに対しては研究室のOBの方からのコネクションで実際にその職に従事されている方とアポイントを取ることで解決できた。

本インターンシップに参加する目的は2つある。1つ目は社会の進歩に対して従事するアカデミックな領域ではなく、企業の利益を求めて従事するビジネス領域に置ける、物事の考え方、業務方法を学ぶことである。2つ目はプロダクトマネージャーとして、企業にとって今後必要になるサービスの提案から展開までのプロセス、各種問題に対しての解決策と解決プロセスを実践しながら学ぶことである。

本インターンシップでは、プロダクトマネージャー間ではもちろん、事業部との議論を行い問題とその解決方法を模索する。その上で要件定義をし、問題によってはエンジニアとの議論を重ねることで問題解決を実行するのが主な業務である。この業務をこなすことで先に述べた参加目的を十分に達成することができた。

成長したポイントは3つある。

1つ目は目的である、ビジネス領域に置ける、物事の考え方、業務方法を学ぶことである。それにより今後の進路を決める上での大きな判断材料となり、自分のやりたい事、素養のある分野をより把握した上で次に進むことができる。2つ目も目的として記述したが、プロダクトマネージャーとして、業務に携わり実践しながら学ぶことである。これはビジネス社会に出たときに役立つのはもちろんのこと、アカデミックな研究においても、そのノウハウを生かすことで今まででは考えられなかった、問題の提起、スムーズな進捗を生み出すことができるようになった。最後に責任のある立場に立って、会社を動かすことで、自分が社会の一員であるということを実感できたことである。大学における研究を行なっているだけでは、どうしても社会への帰属意識は薄れていく。そのままでは真の意味で社会に貢献できる研究を行うことは難しい。本インターンシップを通して、自分が社会に生きる者であるということを実感することにつながった。

達成できなかった課題としては社員さん達との十分な交流である。今回リモートワークだったということもあり、業務時間外に交流する時間が少なかった。しかしオンラインでの飲み会や、個人的な就職活動の相談、その他日常会話を設けていただけたことはよかった。今後コロナウイルスの影響が収束してきた時に、ゴルフコンペに参加させていただけることになっているので、楽しみである。

ヒューマンウェアインターンシップ報告書